



INDOSPEED RACE SERIES 2013 - Putaran 4

参戦報告書

Race #1 決勝中止

Race #2 決勝5位

- ゼッケン/エントリー名 : #21/ JBR-M Synergy Force TRICKSTAR
- ライダー : 佐藤 周
- 監督 : 鶴田 竜二
- 開催日 : 9月14日(土)~15日(日)
- サーキット : Sentul Int'l Circuit /インドネシア
- マシン : カワサキZX-6R
- 結果 : 9月14日(土)RACE#1 予選3位・決勝中止
9月15日(日)RACE#2 予選3位・決勝5位

9月14日(土) 予選 Weather Condition: sunny

金曜日のフリー走行からセッティングを大幅に変更しマシンのセットアップをはかり挑んだフリー走行。

さらに新しいエンジンに積み替えた事が功を奏し1分32秒274という2番手タイムを出す事が出来た。トップとも遜色のないタイムを出し、このまま良い流れで予選へ挑む。

レギュレーションにより予選・決勝と同じタイヤを使用しなければならないため、予選では早めにアタックをし、タイヤを温存する作戦。

しかし、他の選手にマークされ、なかなかアタックする事が出来なかった。

ただ、タイムはフリー走行とほぼ同じタイムの 1分32秒238 となり3番手となった。

決勝はフロントロースタート。

決勝 Race1 Weather Condition: Rainy

決勝スタート30分前からインドネシア特有の激しいスコールが降り始めた。コース上は冠水し、くるぶしまで浸かる程の激しいスコールが降り続いた。レギュレーションによりレインタイヤは使用禁止の為、選手・主催者側にて協議の結果、レースを行う事は危険と判断され中止となった。

シリーズチャンピオンを狙う我々としては非常に厳しい状況となってしまった。

■9月15日（日） Weather Condition: sunny

フリー走行では感触もよくタイムを出す事が出来ていたが、優勝を狙う為には更にタイムを伸ばす必要があった。セッティングを更に変更しタイムアップを狙うが、時間が足りず詰める事が出来なかった。結果、決勝は前日までと同じセッティングにて挑む事となった。

決勝Race2

フロントロースタートとなった佐藤選手。

オープニングラップを2位にて通過する。直後に3位に後退してしまう。

佐藤選手は予選と同等のタイムで周回を重ねるが、トップ2台は佐藤選手よりも速いペースで周回を重ねるため、離されてしまう。

シリーズチャンピオンを狙うには、今レースで表彰台を獲得しなければならないのだが、

予選タイム以上のタイムをだすことができずレースは中盤にかかる。

3台で激しい3位争いを繰り広げるも、あと一歩及ばず5位にてチェッカーとなった。

【ライダー 佐藤周】

公式スケジュールの朝フリー走行では前日までのテスト走行で大きく変更したセッティングや、積み替えたばかりのニューエンジンも好調で2番手。

ベストタイムまではまだまだですが、ようやく1発のタイムはトップと遜色ない所まで来ました。

予選は、いつも通り2・3周で終わらせたかったのですが、コースインしてから数名にマークされ、うまくアタックに入れる状態ではなかったので一度ピットに戻り仕切り直しましたが、

朝フリーとほとんど変わらないタイムで3番手。フロントローグリットは獲得出来ました。悔しい結果でした。

決勝Race1 では同日の夕方からレース1の予定でしたが、直前から降り出したスコールによりレース中止、ノーポイントに。少しでも前とのポイント差を埋めたいと思っていたのですが、レインタイヤが使用禁止の上、コースの半分近くが水没。どうするのか他のライダーや主催者側とグリット上で協議した結果、1周走り様子を見ることになりました。...が、走り出してすぐ全員のライダーが手や首を振り、もちろん危険と判断しピットに戻りました。鶴田監督のアドバイス通り、どんな状況でもスロー走行し最後までピットに入らず「やってやる！！」と思いつつ、チャンピオンの可能性が遠のくのも理解していたので、1周の間かなり悩みましたが、本当に危険な状況だっただけに1人だけグリットに戻る事は出来ませんでした。

決勝Race2 では 日曜日の朝フリー走行は、テスト走行で浮かんだセッティングを試し3番手。

良い所もありましたが、詰めるのには時間が足りないのので、予選と同じセットでレース2に挑みました。スタートして1コーナーを2位で抜けましたが、ミスもあり集団に飲み込まれズルズルと後退。

その後は、セットを詰め切る事が出来なかった部分が出てきてペースを上げる事が出来ませんでした。終始3台での激しい3位争いをする展開でしたが勝たなければいけないレースにも関わらず、5位という情けないレースとなってしまいました。

関係各位、スポンサー様、チーム、応援して頂いた皆様、本当に申し訳ありません。

チャンピオン争いからは脱落してしまいましたが、残りの最終戦、勝ちにこだわり全力で挑みます。

【監督 鶴田竜二】

今回は予選日までの流れも悪くなく、良い結果を出せると思っておりました。

Race1が、雨で中止になった事も流れが変わった要因でもあるかもしれません。

後続車のグループに飲み込まれてしまった事により、佐藤選手の本来持っているスピードが失われてしまいました。レース後半は前に出るも、ブレーキングで抜き返されるという展開で 精彩を欠いて、良いところが出せなかった残念なレースでした。

競り合いに勝てなければ勝者にはなれません。

最終的にはセッティングやマシンの戦闘力ではなく、どれだけ勝利への執念を持ち続けるかだと思います。

今一度、初心に帰り、次戦は勝ちに拘ったレースを行いたいと思います。

スポンサー様はじめ、関係各者様 ファンの皆様、いつも支えて頂きありがとうございます。

我々がこうして異国にてレースをさせて頂けるのは皆様の御陰です。

心より感謝しております。